

寄贈品コーナー 「平田忠心さんと大雄山平塚復興講」

会期：2009年1月4日（日）～2月12日（木）

博物館ですっかりお馴染みになったミショー式自転車の寄贈者が平田忠心さんです。平田さんは明治31年、平塚町平塚新宿（現・平塚市明石町）に生まれ、小間物商を営む家業の手伝いで少年時代から自転車に乗っていました。大正3年、17才のとき、非常にあらたかな神様であると近所の人たちから聞いて、大雄山最乗寺の道了尊（現・南足柄市）に自宅から自転車で参拝しました。当時夢中になっていた自転車競技について「どうか徴兵検査までに一流の選手にしていだきたい」と願をかけました。以後、平塚から道了尊まで毎月自転車で参拝し、18分前後の記録で走り上がったといえます。願いは叶い、出る競技のすべてに優勝できるようになりました。

大正4年、道了尊登山一周年を記念して自転車店を開業、同好の士を募り、大雄山自転車遠乗参拝団を組織しました。大正9年には貸切自動車業を開業します。大正12年9月1日、道了尊へ参拝する客を車に乗せて松田町にさしかかったとき、大地震が襲いました。幸いにも平田さんとお客に怪我はなく、道了様に救っていただいた感謝の念からさらに信仰

を強くします。平塚町は震災で大打撃を受け、荒廃した人々の物心両面を道了様のお力で復興しようと思ひ立ち、大正13年6月に136名の商店主で平塚復興講を開講します。平田さんは昭和63年に89才で亡くなるまで生涯にわたって復興講の講元を務め、道了

尊の信仰に多大な貢献をされました。

寄贈品コーナーでは、平田さんから寄贈された平塚復興講・平塚御詠歌講の資料を中心に、自転車競技・自転車業・貸切自動車業に関する資料や古写真を展示し、道了信仰と平塚市の交通文化の発展に尽力された氏の生涯をたどります。



平塚復興講の道了尊参拝（昭和10年頃）